



北海道大学

# 「リサーチ・アドミニストレーターを 育成・確保するシステムの整備」

(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)

2014年4月24日

北海道大学 理事・副学長(研究戦略担当)

川端 和重

## 北海道大学におけるURAの役割

研究戦略室直属のタスクフォース「URAステーション」を設置 (2012年)

北海道大学のURAの特徴 = 研究(戦略・支援)企画の専門集団を目指す

- 本学の研究力の評価・分析
- 本学の研究開発戦略策定および大型外部資金獲得
- 国際共同研究の形成支援
- 研究成果の活用促進・戦略的広報、社会との対話

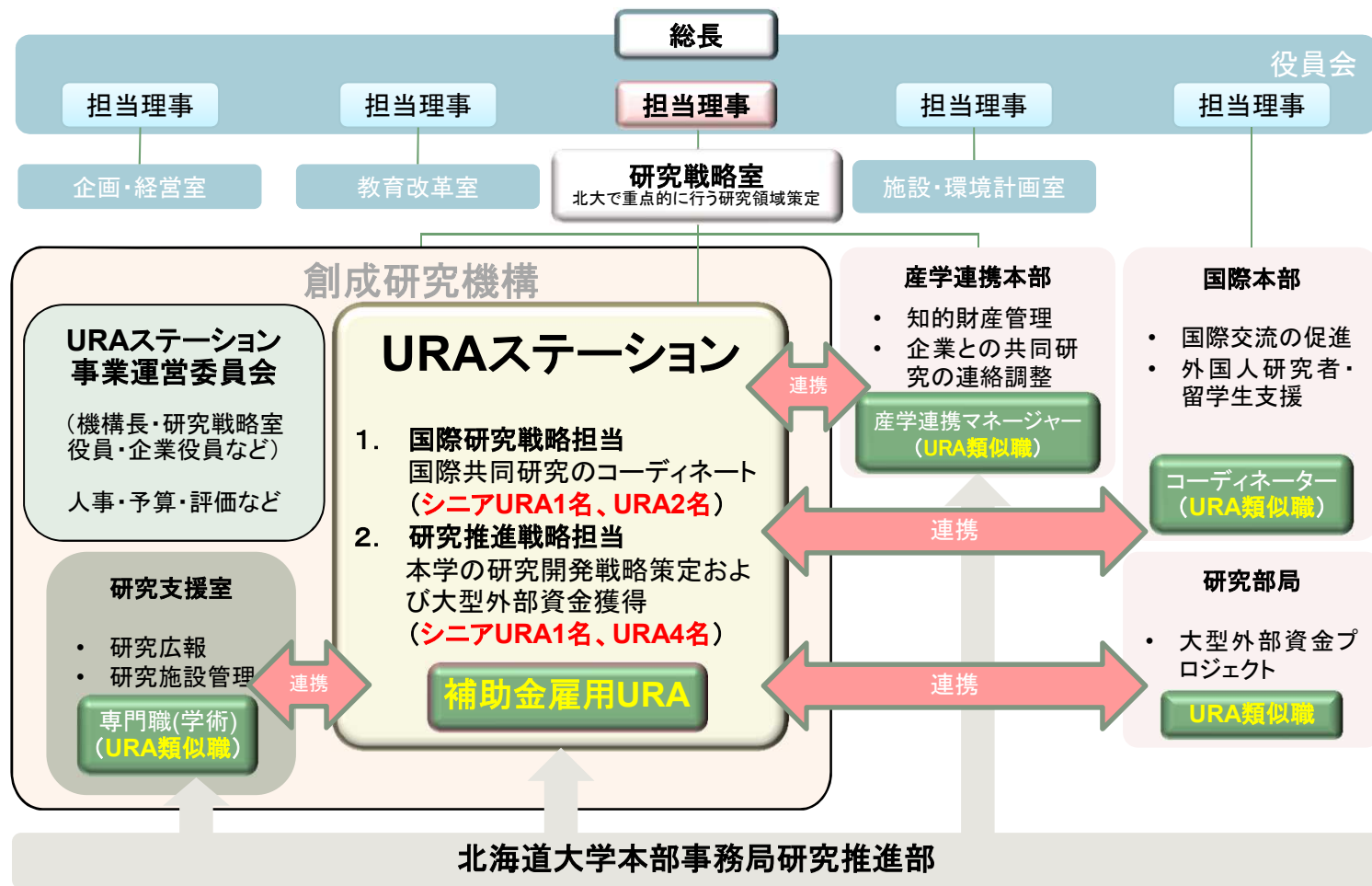


卓越した世界的研究拠点の形成を推進



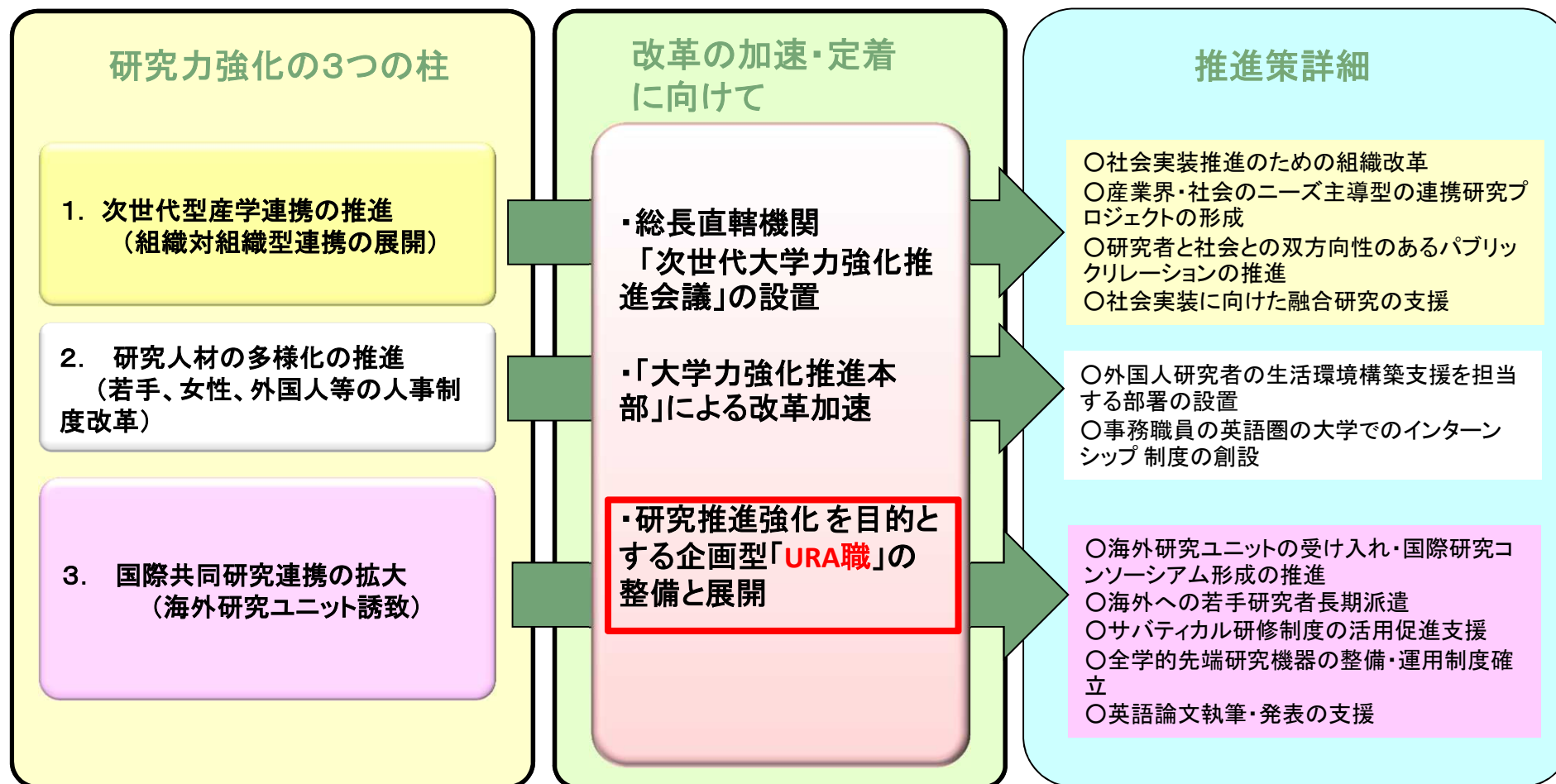
# 北海道大学のURA組織体制の整備

- ・構想調書に沿って**理事直轄**の実戦部隊としてURAステーションを設置
- ・産学連携本部・国際本部・研究支援室等の**既存の運営組織・URA類似職と連携**



# 大学改革の一層の加速化

世界的研究拠点の整備に向けて研究大学強化促進事業等を活用し、そのシナジー効果により研究力強化・大学改革を加速⇒**原動力としてのURA職の整備・展開**

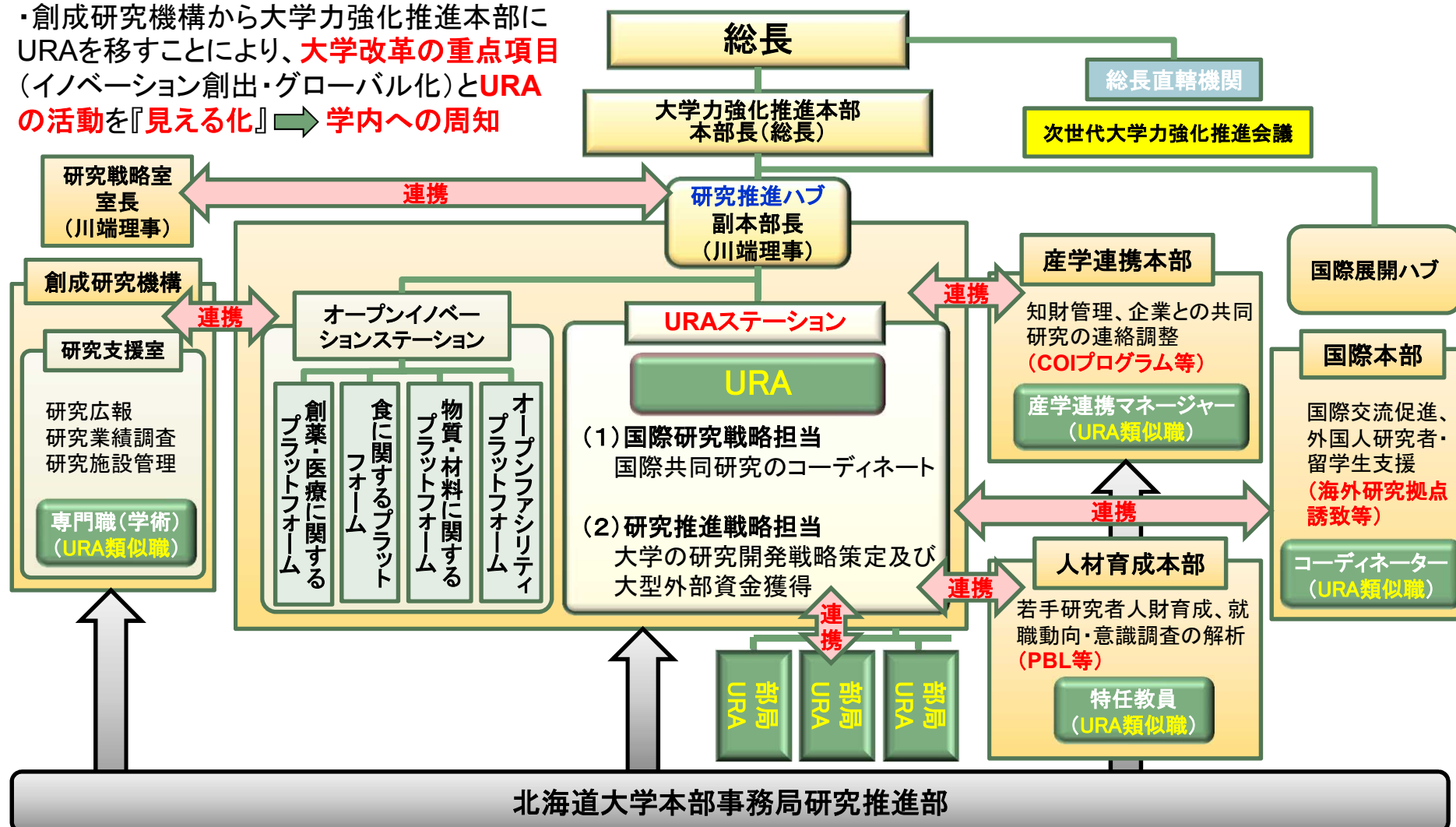


戦略企画型である北海道大学URAは研究力強化推進策を企画・推進する中心的な存在

# URAを中心とした大学システム改革構想(研究大学強化促進事業)

さらなる研究力強化に向け、URAを実行部隊とした大学改革推進を目的とした組織体制を整備  
(平成26年2月設置)

・創成研究機構から大学力強化推進本部にURAを移すことにより、**大学改革の重点項目**(イノベーション創出・グローバル化)と**URAの活動を『見える化』** → 学内への周知




# URAの能力開発プログラムの策定に向けた検討

## URA以外も参加可能な教育プログラム

### URA入門セミナー2012

- ・座学中心の入門的な講義内容
  - ・受講対象者はURAに興味がある方全般に広く門戸を開放
- 参加者のべ:160名  
(学内:60名 道内学外:34名 道外:66名 参加大学32校)

URA職の周知  
URA類似職者のネットワーク形成



### 北海道大学URA教育プログラム2013

- ・実践的な演習を中心とした構成  
プロジェクトマネジメント演習・Webマーケティング演習・グラフィック・ファシリテーション演習 等
- ・受講対象者を研究推進・企画・支援等に関わる教職員に限定
- ・人事を担当する総務企画部と連携し、大学の正式な研修として本教育プログラムを開催

受講者:18名(学内:15名 道内学外:3名)

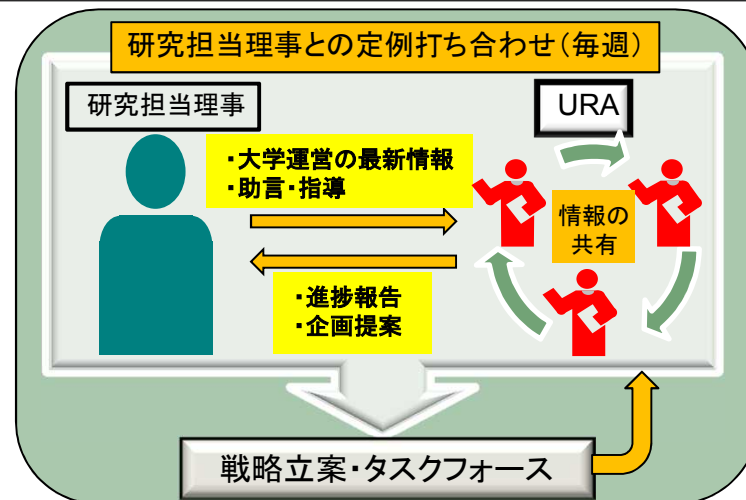
※ 本学の教職員においては、受講履歴を人事記録に記載

将来のURA職候補の  
養成・発掘・把握



## URA内部における教育

理事・プロジェクトリーダー・事務職員  
との協働によるOJT



事務職員との協働



プロジェクトマネジメント  
事業計画  
予算管理  
申請書・報告書作成

プロジェクトリーダーの補佐



### 各担当理事との交流

- ・各担当理事による分野別レクチャーの開催
- ・国際担当理事と国際担当URAの協働

北海道大学独自のURA養成・育成システムを構築



# 学内の研究推進体制の中における機能と研究力強化への貢献

## URAと運営組織との連携活動

### 研究推進：創成研究機構との連携

#### ➤ 全学的な研究基盤整備の強化

- オープンファシリティープラットフォームの企画・整備を推進
- IRを見据えた研究力分析・研究者データベースの構築



### イノベーション推進：産学連携本部との連携

#### ➤ 次世代型産学連携の企画・推進

- 地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備
- 革新的イノベーション創出プログラム
- 研究成果最適展開支援プログラム

食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点  
プロジェクトリーダー 日立コンシューマエレクトロニクス(株) 吉野 正則 本部長  
研究リーダー 北海道大学 大学院医学研究科 高井 裕之 教授

食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造のビジョン

- 健康創造拠点を「病院」から「家庭」へ
- 健康創造方法を「治療」から「健康増進」へ
- 健康情報の管理活用を「医療機関・分散管理」から「個人・一元管理活用」へと移すパラダイムシフトを興し、いつでも、どこでも、自分で食、運動、健康、医療をセルフケアできる「健康でアクティブなエイジレス社会」の実現を目指す。

### 国際研究推進：国際本部との連携

#### ➤ 国際共同研究連携の拡大

- 海外大学からの研究拠点誘致 (スタンフォード大学, メルボルン大学, ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン, キング・アブドラ科学技術大学)
- 地球規模課題対応国際科学技術協力事業
- 学内横断の「北ユーラシア研究会」を立ち上げ、融合型研究推進のプラットフォームを形成



世界的研究拠点の整備の為に、さらなる研究推進体制の拡充へ

## URA自身が企画し、実施した業務事例（オープンファシリティプラットフォーム整備）

柱①

北海道大学の研究を加速し、研究力を強化するための  
「研究大学強化促進事業:オープンファシリティプラットフォーム構想」

柱②

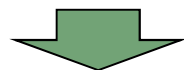
北海道大学で培った知見やノウハウを北海道全体に広げることにより、北海道地区におけるイノベーション創出への寄与および北海道経済の活性化に資する  
「オール北海道分析・計測機器共用拠点創成プロジェクト」

基盤

北海道大学が持つ強み:先進的なオープンファシリティシステム

平成17年度より、北海道大学創成研究機構に拠点を置いて、  
学内の最先端大型機器を学内外に共用化するシステムを開始

しかし、その能力を最大限に引き出すためにはさらなる組織的な改革が必要



- ❖ オープンファシリティプラットフォームのためのチームビルディング
- ❖ 平成25年2月28日:URAアドバンスセミナー「大学における分析機器共有化の取り組みと今後の展望」開催
- ❖ 平成26年2月14-16日:AAAS@Chicagoへ出展
- ❖ 平成26年3月10日:「第1回オープンファシリティシンポジウム」の企画実施

※その他の業務事例は参考資料を参照



北海道大学



# 業務達成目標及び評価方針の策定に向けた検討

## 評価実施状況(平成25年度)

### 1次評価(評価者:URAステーション長)

- 1)各URAが業務内容に応じ業績評価書に評価指標を設定し、URAステーション長に提出
- 2)順次個人面接
- 3)各URAからの業績・能力に関する自己評価結果及び活動報告書の提出
- 4)URAステーション長による評価

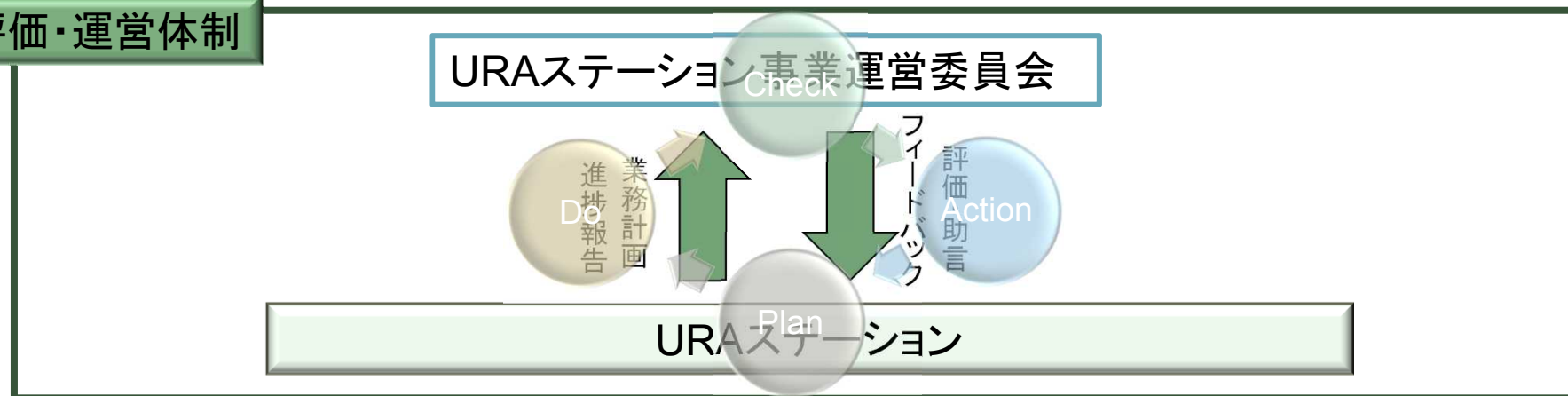
### 2次評価(評価者:URAステーション事業運営委員会)

- 1)URA事業全体について、**外部委員(民間企業)**を加えたURA事業運営委員会が**評価・助言**
- 2)URA事業運営委員会の行うURA全体評価結果を勘案し、創成研究機構長が最終的な個人評価を行う。(4段階:S A B C)

創成研究機構  
URAステーション  
事業運営委員会

創成研究機構長  
創成研究機構副機構長  
研究戦略室総長補佐  
研究推進部長  
産学連携本部副本部長  
国際本部副本部長  
民間企業研究所長  
民間企業研究センター長

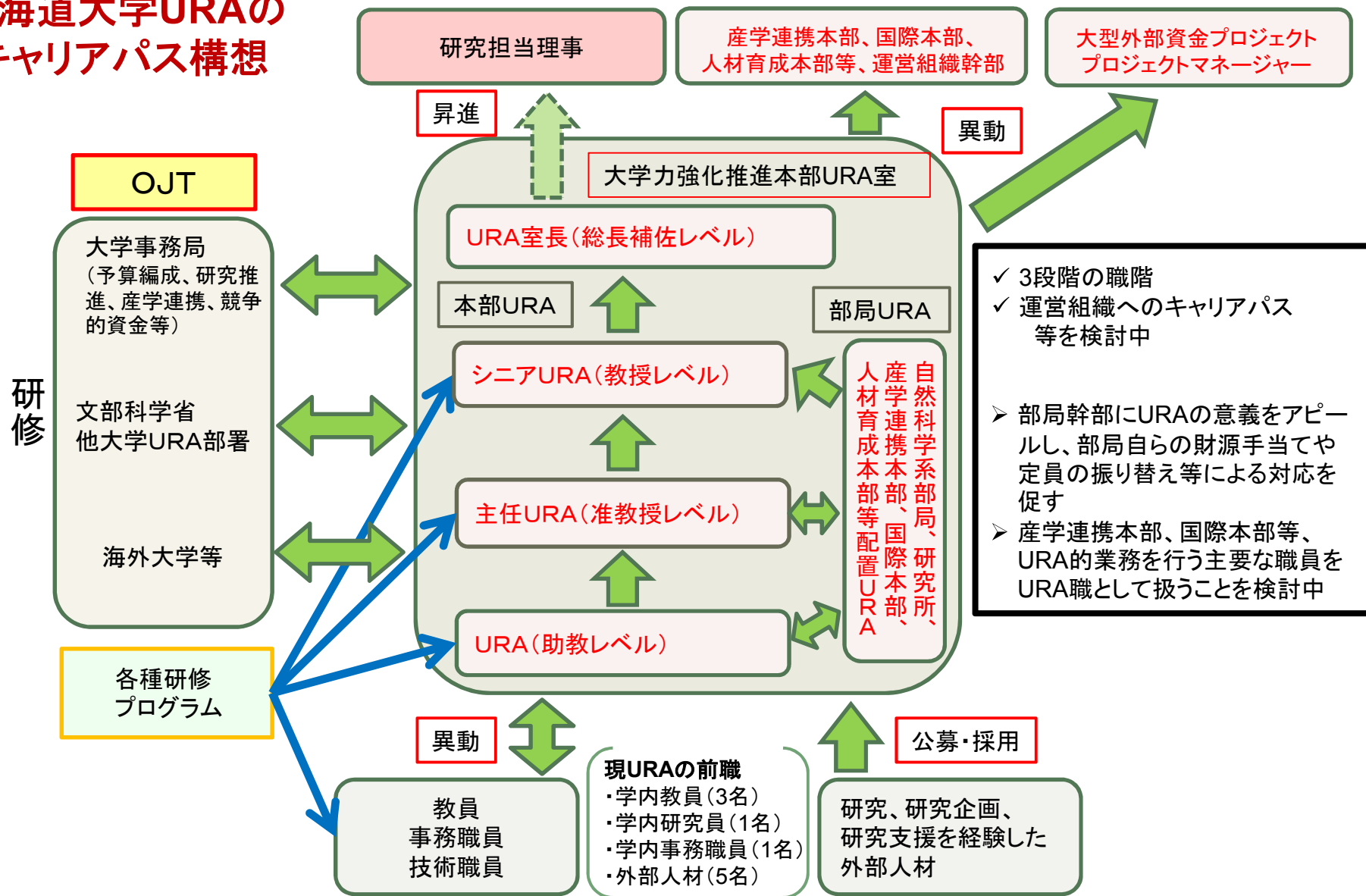
### 評価・運営体制



北海道大学独自の2段階による評価を実施。評価項目は文部科学省の委託で東京大学が策定したURAスキル標準等を参考に今後さらに最適化を行う

# 補助事業終了後のURAのキャリアパス形成に向けた検討

## 北海道大学URAの キャリアパス構想



## 自主経費によるURA組織体制維持の具体的計画

第二期中期目標(平成22年度～平成27年度):

世界水準の研究を機動的に推進するための基盤整備を継続的に実施する。

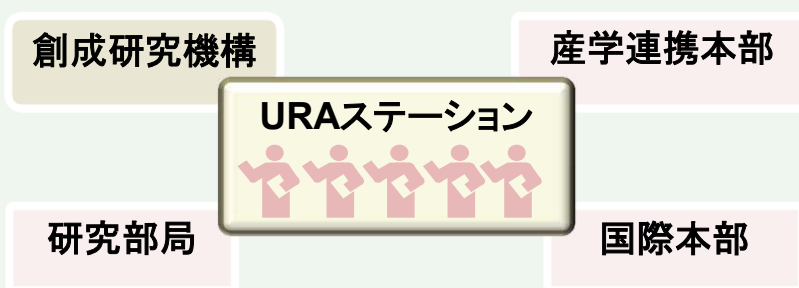
平成25年度計画: URAステーションを中心に大型融合型研究プロジェクト推進のための支援を推進する。

平成26年度計画: URAステーションを中心に大型融合型研究プロジェクト推進のための支援を引き続き推進する。  
: 革新的なイノベーションを創出するために必要な体制や施設(設備)を整備する。

組織整備・人材育成

### 本補助事業継続期間

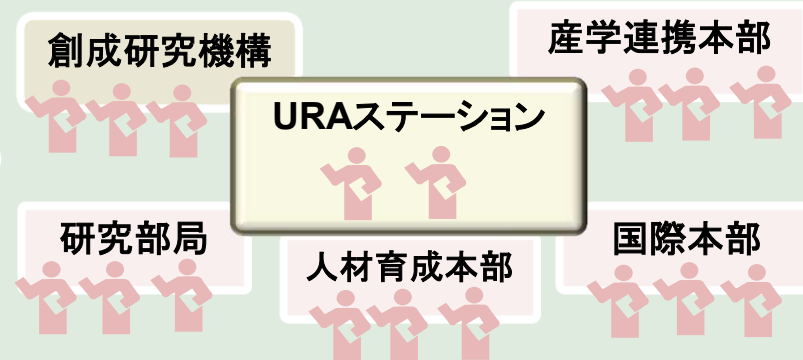
- ✓ 大学力強化推進本部の下にURAステーションを設置
- ✓ 他の運営組織・URA類似職との連携体制の構築・強化



- ✓ 補助金によるURAの雇用(URA補助事業雇用シニア URA2名・URA6名、研究大学強化促進事業雇用2名+α)
- ✓ OJTによる企画戦略型URAの養成
- ✓ 教育プログラム等による人材育成・発掘

### 本補助事業終了後

- 学内にURA職を創設
- 本部URA室・部局・関連運営組織へのURAの配置
- URAのネットワーク的運用



- 外部への出向等によるさらなる高度なOJT
- 定期的な教育プログラム等の開催

より卓越した『世界的研究拠点』形成のための基盤を構築し整備を推進する

## 研究推進・財務・人事関連部局の相互連携による検討・取組

### 総長の下、URA職創設に向けたタスクフォース

研究担当理事  
組織整備担当理事  
研究推進部

事務局長  
総務部・財務部  
(財務・人事労務関連部局)

#### 制度設計の検討

- ・教員・事務職員・技術職員からの移行方法
- ・URA類似職とURAの統合的運用
- ・年俸制
- ・評価
- ・キャリアパス

#### 予算・手当

- ・人件費
- ・活動経費

**平成27年度にURA職の制度化を予定**

### URA組織体制の学内認知活動

#### これまでの取組

- ✓ URA活動の全学への可視化の為、大学力強化推進本部を新たに設置
- ✓ 研究戦略室会議、部局長連絡会議等を利用したURA業務の紹介
- ✓ セミナー発表等によるURAの紹介
- ✓ URA説明会の開催による周知

#### 今後の取組

URAに担当部局を割り当て、**部局担当リエゾン**としての機能を持たせることにより、積極的に部局とのネットワーク形成を行い、URA職創設に向けた学内へのURA業務の周知を行う。



## URAシステムの定着・環境の整備に関する関係役員の取り組み

- ✓ URAのOJT教育を直接指導
- ✓ 大学改革を加速するシステムの中核にURAを位置付け
- ✓ 年俸制の導入
- ✓ 第2期中期目標の年度計画(平成25年度、平成26年度)にURAの役割を明記
- ✓ 大学改革戦略(北大近未来戦略150)にURAの役割を明記



# 参考資料





# 本事業の進捗・成果等の学内外への情報発信の取り組み状況

## 政府関係者へ

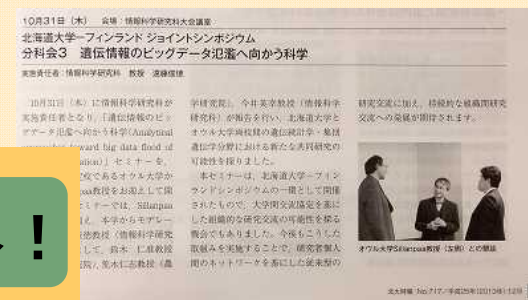
- 文教速報
- ・日ロ学術シンポ (2013.11.11)
- ・GI-CoREシンポ (2014.03.17)



## 北大時報

- (2013年12月号)
- ・日フィンジョイントシンポ
- ・日ロ学術シンポ

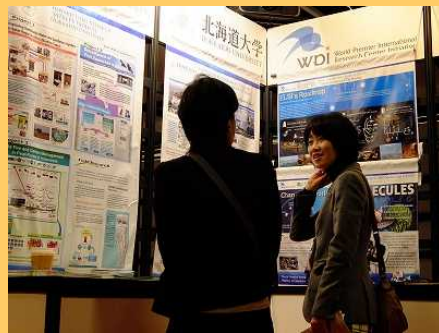
## 学内関係者へ



## 世界中のメディアと研究者へ！

## AAASシカゴ大会 ジャパンプースに出展

- ・ポスター3点等掲示 (2014年2月14-16日)
- ・大学紹介口頭発表 (2014年2月15日)



- 専門誌
- ・産学連携ジャーナル
- Vol.10-1, 2014

## インターネット

- ・HP
- ・メーリングリスト
- ・Facebook
- ・Twitter
- ・ブログ



## 同業者へ

## 広く一般へ

## URA自身が企画し、実施した業務事例（国際研究戦略）

### 国際共同研究のためのマッチング、および研究機関・資金提供機関との情報交換

- 海外と本学の研究者のマッチングを目的とした、海外研究機関との情報交換、研究者の紹介、ミーティングの開催
  - 1) トリノ工科大学 Energy Departmentと本学工学部の研究交流を推進
  - 2) 南洋理工大学の依頼により本学研究者との共同研究のマッチング開始
  - 3) 新規国際共同プロジェクト「理工農会」形成支援(京都大学URA・岡山大学URA・関連企業)
- 外部資金情報および海外研究動向の把握のための、国内外資金提供機関の担当者との面談
- 本学海外オフィス(北京・ソウル・ヘルシンキ・ルサカ(ザンビア))との、現地における研究動向および国内資金提供機関・研究動向についての情報交換
- 国際共同研究に関するシンポジウムの開催(ロシア科学アカデミー)  
⇒ 学内に「北ユーラシア研究会」を立ち上げ、融合型研究推進のプラットフォームを形成





## URA自身が企画し、実施した業務事例（パブリックリレーション）

### 研究成果の社会還元のためのパブリックリレーション・対話の推進

- 「3世代で未来を考える 未来予想ワークショップ in 池田町」(池田町, 平成25年3月)
- 北海道大学 イノベーション・フォーラム in Tokyo「いまこそ“家・めし”～ちょっと未来の健康生活～」(東京, 平成25年8月6日)
- 「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業」イノベティブなアクションプランを創出する対話の開発・ファシリテーターの育成

